校友時報

昭和41年6月10日
編集人兼発行所
秋田県能代市青町近分2
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

新体制でスタート

□一月の信任投票で会長に佐藤則男君、副会長に大塚健三君がそれぞれ信任され、これからの活躍が大いに期待されている。□
□今まで不振状態であった生徒会がこれからどのような進歩をとげ全校生徒に□
□徒にどんな刺激をあたえ、生徒会不振の汚名をどう克服するかが我が能□
□高生のこれからの大きな課題となるのはもちろんのことだが、それより□
□も生徒会の活動を助ける全生徒の〝生徒会への関心〟がより重要な意義□
□を持つのではないだろうか。□

去る一月の下旬に、正副会長の信任投票が体育館で一斉に行なわれたが、その結果会長に佐藤則男君（二G）、副会長に大塚健三君（二C）がそれぞれ信任された。本年度は直接三年生が生徒会にタッチしないという近年にない生徒会活動になり、これから二年生諸君の活躍が注目される。ここで生徒会の今後、すなわち、これから生徒会がどのような発展を遂げ、全校生徒にどのように刺激を与えるかは去年の反省をもとにして考えてみよう。

数年来、本校には生徒会振という繁殖力の強い カビが付着して次第にその力を増し、今日ではもう学校中に強くひろがりついてしまっている。そのカビを取り去ろうと伊東前会長は座談会など「話し合いの場」を設けて、個々の生徒の心を徐々に高めようとしたが、その効果は依然無関心というありさま、こういう状態でいる今に年間能高の輝しい伝統もその光さえ失なわれていくだろう。そこで、今能高生が一番なさなければならないことは「団結」である。生徒会を中心とする団結によってそのカビを取り去り先輩の名誉ある伝統を守り続けていくことができるのである。

ここでその具体的な方法を考えてみると第一に「H・Rの活用」があげられる。このことは伊東前会長も試みて成功している。そして本年度の生徒会も「H・Rの活用」を第一目標としてあげている。元来H・Rというのは生徒手帳にも載っているように、生徒委員会に提出する各種議案の討議を行なったり、生徒委員会における議決事項の説明をするものであるのに、今までは自習あるいは担任の先生の連絡事項などで終ってしまう。そのため生徒委員会の時はH・Rの意見を持ってくる代表者はごく少なく会議が進まない。これではせっかく生徒会側が生徒の意見を聞いて今後の参考にしようとしてもなんの意味もなさない。ここにわたしたち能高生が考えなければならないことがある。いくらまわりで「生徒会振」……、といっても全校生徒が協力し合えば汚名も完全に克服できるのである。

次に第二の方法としては運営機関である総務局の活動である。近年これらの機関はあまり活発であったとはいえなかった。特に学校のまた生徒会の発展にかかせない風紀、厚生部の活躍が目立たなかったことが非常に残念であった。

今後、これらの各部は一カ月に一回でも部会を開いて、今後の活動の方針を検討して実際に行動すべきだと思う。そうするとこの総務局の活躍はこれからの生徒会の発展に大きな原動力となるだろう。

今後は能高生がお互いに団結し、生徒会および本校の伝統を守り、さらに輝きを増していうではないか。

× × ×

生徒に自主性を

説部

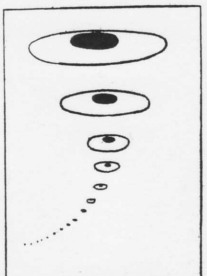
新学期が始まり新しい役員も決ったころ、生徒会では各部ごとに全校の委員を集めた。だが各HR に三人づつ委員を選出した。現在HRにおいての保健、風紀、厚生などの活動はなきに等しい。他の委員にしてみてもかろうじて何かをしているにすぎず、積極的な行動は見られない。この無責任さ不誠実さは生徒自身の自覚が足りないのは言うまでもないが、それ以前に委員の選出法にも問題があるのではなかろうか。

現在行なわれている委員の選出法には大きく分けて三通りある。第一にすべての委員を先生の任命によるもの、第二に生徒会長などは選挙であとは先生の任命によるもの。第三にすべてを選挙によるものである。理想的なものは第三である事は言うまでもないが第一か第二の方法である。特に一年生は本学当時、名前もわからず無理となって全部が先生の任命によるものである。最も早い時期に選挙をする事になっていたが、六月十日現在選挙がまだ実施されず委員が決まったのは二クラスだけである。一年生はしかたがないとしても、二、三年生の中で任命制が大手を振って通っているという事はいったいどういう事なのだろうか。しかもこの任命制は生徒の素質など考えたものではなく、成績や出席番号で簡単に決められ、一枚の紙きれで掲示されるとは、あまりにも先生方の配慮がなさすぎるのではないか。さらに生徒会員の第四章第十三条の役員の選出法に「生徒委員、選挙管理委員は所属HR員の選挙による」と決められているのである。

校則を守れと常に口をすっぱくしている先生方自ら会則を無視しているとは皮肉な話である。しかしこれらの機関はあまり活発であったとはいえなかった。特に学校のまた生徒会の発展にかかせない風紀、厚生部の活躍が目立たなかったことが非常に残念であった。

今後、これらの各部は一カ月に一回でも部会を開いて、今後の活動の方針を検討して実際に行動すべきだと思う。そうするとこの総務局の活躍はこれからの生徒会の発展に大きな原動力となるだろう。

今後は能高生がお互いに団結し、生徒会および本校の伝統を守り、さらに輝きを増していうではないか。


学生のみせ
キムラヤ
はたまち　2－5535

新役員決まる

二月下旬に四十一年度前期生徒会長並びに副会長の信任投票が一、二年生を体育館に集め一斉に行なわれた。今回の投票は近年のような無効投票をなくするためにこのような方法をとったものである。立候補したのは会長には佐藤則男君（二G）、副会長に大塚健三君（二C）で共に信任された。

その後それぞれの役員が選ばれた主な役員は次の通りである。

▼生徒総会議長　大久保博司
　　副議長　後藤　茂
▼選管委員長　山田　達則
▼企画部長　長谷川広美

今回の新生徒会は主な役員が二年生で三年生がほとんど生徒会にタッチしていないという一新した生徒会活動になった。

新生徒会は「生徒会不振」の汚名を克服しようとはりきって活動している。

二五七名が大学に合格

うち五六名が国立

本校今年度の大学合格者は二百五十七名（現役二百十七名、卒業生四十名）で昨年と比べて合格数においては大きな違いはない。内訳は国立大合格者は五十六名、公立六人名、私立大百七十四名、私立短大十八名、国立短大一名である。主な国立大と合格者は北大六名、岩手大十名、秋田大十七名（鉱山十一名、学芸六名）、新潟大五名東北大六名、東大一名、一ツ橋大一名、横浜国大二名である。次に公立大私立大は福島医大四名、早大十五名、慶応大二名、明大十一名、法政大九名、立教大二名、日大十五名、駒沢大四名、その他となっている。今年特に合格者数の多かった大学名は早大十五名（昨年五名）、北大六名（昨年一名）岩手大十名（昨年二名）などがあげられる。

また就職者は八十五名（県内三十六名、県外四十九名）である。就職先は東京の三十二名をトップとして能代山本二十四名、県内十二名、東北十名となり職業別では卸売商店十六名、市町村役場八名、自衛隊六名、百貨店、電々公社、警察官、国鉄各五名などと順に続いている。

主な事業所は丸興百貨店二名、大丸東京店二名、秋田銀行二名、秋田県警察官三名、能代市役所五名となっている。

生徒会費四十円値上げ

去る四月二十五日、六時限から放課後にわたって今年度第一回生徒総会が開かれた。この総会では昨年度決算報告及び本年度生徒会予算の審議が行なわれた。最初に行なわれた決算報告は二・三の質問があっただけで、過半数の賛成により承認されたが、引続いて予算案の審議に入り、特に生徒会費四十円値上がりについて、質問が多く難行した。しかし結局は諸物価の値上がりでクラブ運営が困難なのと、月に四十円はあまり負担がかからないからということで可決された。また予算が増加したクラブは陸上部の五万千六百四十円を筆頭に、ブラスバンド部の四万四千五十円、硬式野球部の二万八千八百円などで減少したクラブは、軟式野球部、文芸部などである。

昭和41年度生徒会予算

クラブ名	予算額	増減
論文	3,500	(+2,000)
芸術	37,535	(−2,465)
学芸	50,500	(+12,000)
楽器	9,620	(+2,010)
道具	19,730	(+390)
画面	21,000	(+5,500)
劇場	100,000	(+20,000)
ソング	35,585	(+1,835)
ラジオ	130,000	(+44,050)
真剣	22,290	(+6,990)
球技	248,800	(+28,800)
球技	51,500	(−2,500)
球技	66,710	(+18,930)
球技	38,800	(+7,800)
ソフトテニス	56,600	(+21,200)
バレー	79,600	(+6,600)
ケット	33,700	(+3,900)
一輪	77,250	(+51,640)
操技	40,000	(+8,850)
道具	82,400	(+9,600)
上部	37,000	(+23,400)
キャプテン		
弁論		
文科		
音楽		
書道		
絵画		
新聞		
演劇		
プラモデル		
写真		
硬式野球		
軟式野球		
庭球		
卓球		
バスケット		
バレー		
体操		
陸上		
柔道		
剣道		
スキー		

時評

時の記念日に寄せて

松淵マツヨ

もう間もなく六月が来て、やがて一年の半ばも過ぎようとしていきるきのうきょう、今年ほど、松の淵家にとっても、私にとっても時の流れでもある。

二十代の時に北高に勤めてからこの四月能代高に来るまで、ずっといたのだから、順みると分身で活かしも失くしもきず、随分長くなっていた。今迄はその日その日が只、忙しく、過ぎ来し方をふり返ってみる暇などなかったので〈時〉の事など自分外の事のように思って日々を送っていた。

——娘の頃暮した元山の高台の家の玄関前に連翹があった。紺青の海の見える坂道を上ってきて花崗岩の階段を右手に登ると眩しい日射しを浴び連翹の花が黄色い小粒の花を、一杯並べてあった。北高の中庭にもこの連翹があって、東北の辺りとうしい花曇り の空を背景に目立たなく咲いて目立たなく散っていた。来る春ごとに私はよく生徒にこの名前と文字を教えた。能代高の玄関の横にはまた見事な連翹の木があって、黄色の花々を全部

〈時〉の持つ有難さに頼るが事多かった。

しかし、チャンスとか契機とかいわれるものも結局は人間側にある筈で、幸福を維持する為に努力を惜しまないようと春の魅げを彩っていた。北に、〈時〉を手中にする為に努力を惜しまないならば、この「手中の時」は思い がけない時、いかに美なるものよりに表現れる。その時人間は極く短い間にあっと思う程の素晴しい姿貌 を遂げていに違いない。

（国語科）

バンと洋菓子
エーワン・ベーカリー
T2－2343

本
一長堂
T2－4124

若い世代の万年筆
キャップレス
特約店
三田時計店
駅前 T2－3522

Opt　Pen
カモヤ
畠町 T2－3854

佐藤写真館
カメラ
D.P.E.
大町 T2－2433

かしわもち
高級洋菓子
松雲堂
駅前店 T2－2407